

令和3年10月12日

日本医療検査科学会

令和3年度第2回遺伝子・プロテオミクス技術委員会 会議議事録

日時 令和3年10月9日(土)

開催場所 パシフィコ横浜+オンライン会議

議事内容

1. 委員の変更について(資料1)
2. 白血病関連遺伝子検査 WG 報告(資料2)
3. MALDI-TOF MS WG 報告(資料3)
4. がんゲノム検査の評価と規制に関する基本的考え方 WG 報告(資料4)
5. 遺伝学的検査における外部精度管理としてのクロスチェック WG 報告(資料5)
6. 技術セミナーについて(追加資料)
7. その他審議事項

配布資料

資料1: 委員の変更について

資料2: 白血病関連遺伝子検査 WG 報告

資料3: MALDI-TOF MS WG 報告

資料4: がんゲノム検査の評価と規制に関する基本的考え方 WG 報告

資料5: 遺伝学的検査における外部精度管理としてのクロスチェック WG 報告

追加資料: 技術セミナー報告

出席者

※敬称略、途中出席者・途中退席者含む

村上 正巳	群馬大学大学院 医学系研究科臨床検査医学
中山 智祥	日本大学医学部 病態病理学系臨床検査医学分野
糸賀 栄	かずさ DNA 研究所
曾川 一幸	麻布大学生命・環境科学部
松下 一之	千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部
青木 留美子	日本大学医学部附属板橋病院 臨床検査部
東田 修二	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 臨床検査医学分野
末岡 榮三朗	佐賀大学医学部附属病院 臨床検査医学
南木 融	筑波大学附属病 院検査部
草場 耕二	佐賀大学医学部附属病院検査部
村田 正太	千葉大学医学部附属病院検査部
安田 和成	三重大学医学附属病院 中央検査部
竹田 真由	藤田医科大学病院 がんセンター
郡司 昌治	名古屋第一赤十字病院
長田 誠	群馬パース大学 保健科学部 検査技術学科
佐伯 裕二	宮崎大学医学部附属病院 検査部
堀内 一樹	信州大学医学部附属病院 臨床検査部

中條 聖子	H.U.フロンティア株式会社 マーケティング本部
福井 崇史	株式会社ファルコバイオシステムズ バイオ事業統括部
山口 敏和	(株)ビー・エム・エル 先端技術開発本部
森 篤雄	(株)ニッポンジーン
奥村 元	ビオメリュー・ジャパン株式会社 臨床マーケティング部
藤永 あずみ	ブルカー・ジャパン株式会社
副島 隆浩	研化学株式会社 マーケティング推進室 マーケティング3部
梶川 益紀	株式会社リコー HC事業本部 バイオメディカル事業センター 診断薬事業室
日比 正彬	株式会社エスアールエル 遺伝子・病理部 ゲノム解析課
宮下 大地	群馬大学医学部附属病院 検査部
塩田 あすか (吉本委員の代理出席)	シスメックス株式会社 学術情報部 (オブザーバー)

議事内容

1. 委員の変更について（資料 1）

前回の会議から大塚先生（株式会社保健科学研究所）が日本医療検査科学会退会に伴い退任。

新しく日比正彬先生（株式会社エスアールエル）が加入。

2. 白血病関連遺伝子検査 WG 報告（資料 2）

糸賀 WG 代表から以下についてのご報告がなされた。

- ・今年度の技術セミナーにて WG の活動について報告した。
- ・現在までにリコー社が開発した DNA 標準プレートと各施設で抽出した RNA を用いて行なった予備実験を行った。
- ・今後は、本委員会の委員の施設にて DNA 標準プレートと各施設で抽出した RNA を使用して major *BCR-ABL* mRNA の LoD/LoQ についてのパイロット試験を実施予定。
- ・パイロット試験の結果から問題点を抽出して手順の改訂を行なっていきたい。
- ・このパイロット試験を外部精度評価として、実施してもらえらる委員の施設を募集したい。前回の外部精度評価に参加して頂いた施設には是非参加して欲しい。

3. MALDI-TOF MS WG 報告（資料 3）

曾川 WG 代表から以下についてのご報告がなされた。

- ・現在外部精度管理を検討しており、参加予定の 43 施設に菌株の送付が完了した。本学会の理事会においても承認を得ている。
- ・外部精度管理の目的は本 WG で構築した精度管理方法が実施可能か検討するため。
- ・測定は 11 月中に全て完了し、春季セミナーではデータの集積、夏までには論文化を予定している。
- ・微生物検査の精度管理であるため、「今後 MALDI-TOF MS が導入されている全施設で行うつもりならば臨床検査技師が関与する 4 学会と共同で行なってはどうか」と日本臨床微生物学会の大塚副理事長より提案頂いた。
- ・現在は検討段階のため、実施可能かどうかはまだ分からないが、可能であれば本学会が主催となり、残り 3 学会に共催してもらえれば普及が可能かもしれない

- ・微生物検査・感染症委員会とどのように連携を取れば良いか村上先生に調整して頂きたい

4. がんゲノム検査の評価と規制に関する基本的考え方 WG 報告（資料4）

松下 WG 代表から以下についてのご報告がなされた。

- ・新たに日比様を WG メンバーに加えて活動を行う。
- ・今後はゲノム検査の精度管理と人材のリクルートをテーマに活動を行う予定である。
- ・9月29日に厚生労働省よりゲノム検体や臨床検体の利活用に関する文書が発表され、従来と比べ、新たな診断装置の開発や検体の利活用がしやすくなっている。
- ・そのような状況下で臨床検査医や臨床検査技師が主体的に関われるように活動を行なっていきたい。

5. 遺伝学的検査における外部精度管理としてのクロスチェック WG 報告（資料5）

中山 WG 代表から以下についてのご報告がなされた

- ・本 WG は日本医療検査科学会で行うものと日本大学医学部病態病理学系臨床検査医学分野として行う2種類のシステムを構築している。日本医療検査科学会の方は学会ホームページに、日本大学医学部の方は臨床検査医学分野のホームページにて募っている。
- ・クロスチェックは10箇所のバリエーションを解析してその一致率を比較する。
- ・日本大学医学部の方のホームページにはバリエーション解析やウェブの情報検索に関して、誰でも視聴可能な動画をアップしている。慶応大学の小崎健次郎先生の研究費を用いて立ち上げたものである。

6. 今年度の技術セミナーについて（追加資料）

事務局より今年度の技術セミナーについて報告した

- ・講演編参加者 28 名（事前参加登録者 17 名・当日参加者 11 名）。
- ・実習編参加者 15 名（事前参加登録者 12 名・当日参加者 3 名）。
- ・緊急事態宣言下での参加募集であったため、例年に比べ参加者が少なかった。

中山先生

- ・現地参加のみ参加修了書（参加証明書）を配布しているが、オンデマンドで参加する方

にはどうか。

事務局

オンデマンドで参加の方にも参加修了の配信は可能。

村上先生

- ・オンデマンド参加者への対応を検討する。
- ・実習編の司会進行を急遽曾川先生にお願いし、進行して頂きました。ありがとうございました。

糸賀先生

- ・例年の事でもあるが、各ブースの声が混在するので、パーテーション等で仕切ってはどうか。

村上先生

- ・実習編では参加者が少なかったため、十分なディスタンスを取って実習が実施できた。

曾川先生

- ・実習編の人数が少ないため、参加者はしっかりと実習を体験できてよかったのではないか。

以上